

2025年1月31日

各位

株式会社三井住友銀行

株式会社ダスキンに「ESG/SDGs 推進分析融資」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留 朗裕）は、株式会社ダスキン（代表取締役 社長執行役員：大久保 裕行）に対し、「ESG/SDGs 推進分析融資」を実施いたしました。

「ESG/SDGs 推進分析融資」は、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が作成した独自の評価基準に基づき企業の ESG（※1）側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）（※2）達成への貢献を評価し、取組や情報開示の適切さについての現状分析、今後の課題、課題への取組事例などを還元させていただく融資商品です。

今回の株式会社ダスキンに対する評価結果は、「環境マネジメント」、「顧客に対する誠実さ」、「サステナビリティマネジメント」において非常に高い水準であると判断されました。企業経営において大変優れた ESG 側面の取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じた SDGs への貢献意欲が高いとの判断となりました。

ESG 側面の取組、情報開示では、以下の点等が進んでいるとされました。

- ① 2050 年の「ありたい姿」として「ダスキン環境ビジョン 2050」を策定し、「資源循環社会」「脱炭素社会」「環境共生社会」に向けて 4 つのチャレンジ項目を設定。環境ビジョン 2050 をバックキャストする形で 2030 年までの数値目標を設定し、ワンウェイプラスチックの排出抑制や容器包装プラスチックのリサイクル、食品ロス削減、再生可能エネルギーの導入促進等に取り組んでおられる点。
- ② 店舗における多様な消費者への配慮や、顧客窓口であるコンタクトセンター等での対応状況、「食品安全確認会議」の開催等、顧客利益を保護するための具体的な取り組み内容を開示。地域コミュニティの課題解決に資する取り組みとして、レントオール事業では、災害発生時に自治体の避難所開設に必要な施設衛生サービスや、防災サポートサービスを提供し、災害からの早期復旧体制の整備に貢献しておられる点。
- ③ 事業活動を通して経済・社会・環境の課題解決に向けた CSV（共通価値の創造）を推進するため、マテリアリティを特定したうえで、マテリアリティ毎に KPI（重要業績評価指標）を設定している。また、多様なステークホルダーとのコミュニケーションとして、地域の自治体や

学校等を対象にした事業所見学の受け入れや出前授業等の内容を開示しておられる点。

加えて、事業を通じて、SDGs が示す「目標 11 住み続けられるまちづくりを」、「目標 13 気候変動に具体的な対策を」等の達成に向けた意欲をお持ちです。

株式会社三井住友銀行では、「ESG/SDGs 推進分析融資」により、お客さまの ESG/SDGs への取組を、金融を通じて支援してまいります。

<ご参考>

※1 ESG とは

ESG とは環境 (Environmental)、社会 (Social)、企業統治 (Corporate Governance) の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGs とは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を 2030 年までに目指す 17 の目標と 169 のターゲットのことです。

以 上